

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	金沢工業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カナザワコウギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ実践
	学部・研究科等名	全学部・全学科
	担当教職員名・役職	進路部長 教授 徳永光晴キャリア支援室 課長 二飯田一貴
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	83
受入企業等数	70	
受入企業等名	ANAラインメンテナンステクニクス、ATOUN、CTCテクノロジー、CTI グランドプランニング、DESIGNSTUDIOCROW、DIC、FEBACS、JAL エンジニアリング、jigip、JMACS、JXTGエネルギー、JXエンジニアリング、KJケミカルズ八代工場、NTTインフラネット九州支店、アイランドウェイフリピン、アドバンスドプランニング、いずゞエンジニアリング、エイアンドティー、エキスパートパワーシズオカ、オムロン阿蘇、カネカ高砂工業所、カネカ高砂工場、カンセツ、キャノン、コスモ石油千葉製油所、コニカミノルタジャパン、サッポロビール九州日田工場、サントリーホールディングス、ソニーコーポレートサービス、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ、トノックス、パーソル R&D、フリーダム、プレシード、ペアールルートシステムクス、メタウォーター、旭化成、一級建築士事務所黄木設計室、宇部興産、荏原製作所、化学及血清療法研究所、花王、関西電力、協和発酵バイオ、興人フィルム&ケミカルズ、極東興和、九州沖縄農業研究センター 他	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は、派遣先企業にて実際の業務に従事する就業体験、企業課題に取り組む課題解決、製造現場等で行なう実習等を行う。また就業体験の最終日には企業担当者へ向けた成果報告・発表を行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次、3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	全学部全学科の2年次生、3年次生を対象としている選択科目である。事前講義を受講し、夏期休暇中にインターンシップに参加し、事後講義を受講することと、それぞれの課題提出により総合的に評価し、単位(1単位)認定している。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	専用の教材「KITインターンシップガイドブック」を使用して事前学習を行う。具体的には、派遣先企業研究、参加目的の整理及び社会人基礎力(経産省提唱)を本学独自で作成したルーブリックを用いて事前評価、目標設定を行う。また、派遣先でのマナーや、企業での機密情報の順守について学習する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	派遣先企業で作成した日報、報告書及び事前講義で作成した社会人基礎力に対する企業担当者からの評価結果を基に、グループワーク、発表を行う。また各自が今後の修学計画について策定していく。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生が企業へ派遣されている期間に企業訪問をし、学生と面談を行う。また、受入企業担当者や現場担当者とも面談を行い、本学の学生についてや、評価指標について等の意見交換を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	経産省が提唱する社会人基礎力(3つの能力、12の能力要素)を基に作成した評価指標、ルーブリックにより学生のインターンシップ参加前と参加後の自己評価により、学生の成長度合を確認している。また企業担当者の評価結果も参考にして確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	3日間または4日間の場合は2社以上の組み合わせにより可としている。
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則として、実働5日間以上、合計時間30時間以上のインターンシップを対象としている。3日間または4日間の場合は、2社以上の組み合わせで可としている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 7.その他
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	企業担当者とインターンシップ参加学生とが参加するワークショップを実施している。企業担当者と学生とでより良いインターンシップについてグループワークを行い、今後のインターンシップの参考としている。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業担当者にアンケートを実施している。社会人基礎力の各能力要素について重要視する項目について調査した結果を学生に提示している。また、学生が事前講義の際に自己評価、目標設定した項目について企業担当者から評価を受けている。

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://edu1.kanazawa-it.ac.jp/syllabus/clip/1201812016G434010.pdf
問い合わせ先	大学等名	金沢工業大学
	担当部署名	キャリア支援室
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	二飯田 一貴
	電話番号	076-294-6985
	メールアドレス	intern@kanazawa-it.ac.jp